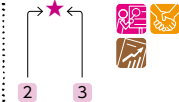


戦略

1

就学後も保護者を含めて、学校法人國學院大學に関わろうとする意識を持ち続けている。



行動計画のストーリー

國學院大學附属を意識した入園者に対して、今以上に、法人傘下にあることを意識づけるよう、法人、大学、高校、中学等との関わり、施設利用交流などを行い、将来にわたって学校法人國學院大學に関わろうとする意識を持つ園児や保護者を増やしていくようにする=教育ブランドの構築。

平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
卒園児の進学調査・現状把握		卒園生と在園児の交流・保護者、地域への教育力の発信・公開		
認知資産の活用と マルチブランド展開の研究		認知資産の有効活用と教育ブランド展開の実施、検証		
教育環境の整備と法人施設の有効活用計画の検証				
評価指標				
・就学、進学先 調査アンケート ・意識調査	・就学、進学先 調査アンケート ・転園児の減少	・交流イベント参加数調査 ・環境を含む大学施設の 有効活用ができています	・交流イベント参加数調査	・ブランド意識調査

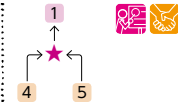
達成後の姿

- ・身につけた能力を最大に生かせる法人設置校に進学している。
- ・小学校連携の教育活動や保護者への支援をバックアップできる組織になっている。
- ・附属幼稚園の取り組みを支援し、本園の価値を推奨する保護者と卒園児が多数存在する。

戦略

2

生活の基礎力、コミュニケーション力、学びに対する意欲と表現する力を持っている。



行動計画のストーリー

幼保小連携プログラムにある「就学前の子どもの姿」に基づき、カリキュラムの効果と検証を行い、非認知スキルなどを意識したカリキュラムの充実をはかるとともに、未来の教育（方法・環境）の取り入れや、法人連携のもとに教員育成との相互研鑽ができるよう交流企画を行い、生涯教育のスタートとなる就学前教育を確定していく。

平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
地域の小学校との連携体制の構築・研修強化		幼保小連携プログラムの地域連携と発信		
人間開発学部との連携体制の構築		法人との連携・交流企画(英語&ICT教育の取り入れ企画)・実施		
就学時、就学後の幼児の姿の確認・カリキュラムの再編成(非認知スキル重視)		カリキュラムの導入、実施と検証		
カリキュラム評価指標の作成			就学前教育における アクティブ・ラーニングの実施と検証	
評価指標				
・保護者ニーズアンケート	・カリキュラム再編効果の確認	・方向性の確認	・保護者満足度調査 ・結果報告	・効果検証

達成後の姿

- ・建学の精神、教育理念のもとに生活の基礎力、コミュニケーション力、学びに対する意欲を備え、のびのびと自己表現ができる幼児に育っている。
- ・ツールとしての英語、ICT教育の導入により主体的な学習活動参加、学習意欲、思考力、判断力が向上している。

※幼保小連携プログラム・杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム

戦略
3

伝統文化や行事に対する知識や感情が、より深められている。



行動計画の
ストーリー

日本の伝統行事や文化を通して、日本の良さを自覚できるような体験を重ねることにより、その想いを大切にできるよう育み同時にそれらのイベントも法人と連携しながら開催していく。

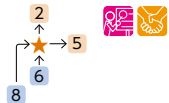
平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
伝統文化・行事の学びについての研究		行事の学びが深まる保育イベントの実施		
法人との連携体制の構築・企画の検討		連携イベントの開催とネットワーク利用の発信		
評価指標				
・保護者アンケート ・行事認識調査	・企画アンケート ・法人との連携体制が構築できている	・プログラム検証・報告 ・イベント検証 (開催数・参加者数)	・満足度アンケート(保護者) ・アンケート(地域)	・法人設置校の教育機関としての方向性確認

達成後の姿

・伝統文化や行事に関心をもち、学びを深め、その良さを大切に感じられる心を持つ園児に育っている。
・伝統文化や行事イベントの開催、地域公開を通して、その良さが幼児に伝わっている。

戦略
4

園児の発達に合わせたカリキュラムが整備されている。



行動計画の
ストーリー

入園時より発達障害を含む要支援児が増大しつつある中で、既存のカリキュラムに加えた新しい取り組みが多項目にわたり、達成度や目的が低下しつつある。附属幼稚園の5年計画の中で、建学の精神を含む教育理念に合わせて、カリキュラムのスリム化と見直し、再編成を行い、脳科学、体や心の成長段階を加味した、カリキュラムのPDCAサイクルを構築することでスパイラルアップする。

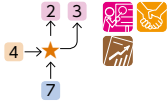
平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
既存カリキュラムの検証		カリキュラムの構築		
心身・脳などの発達についての研修実施		実施・検証		
発達支援のバックアップ構築・教育カウンセリングの構築		評価指標とPDCAサイクルの作成		
評価指標				
・教育内容の検証 ・方向性の確認	・研修報告 ・研修結果報告	・新カリキュラムが構築できている	・保護者の満足度調査	・検証結果報告

達成後の姿

・変化する社会情勢・環境に合った充実したカリキュラムが構築されている。
・発達障害を含む何らかの要支援児に対するPDCAサイクルが構築されている。

戦略
5

教育内容、教育環境に四季感が取り入れられている。



行動計画の
ストーリー

従来の行事のあり方を検討し、四季感のある行事をクローズアップして再考していく。教育環境での四季感の取り入れは園庭改修と、実体験を重視した環境(園外保育など)の取り入れも行い、日本の四季、合わせて日本独特の美しい表現などを教育内容に盛り込む。

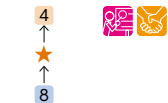
平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
行事内容の検証・再構築の検討		再構築行事と保育（園外保育含む）の実施、検証		
教育内容の四季感取り入れ検討				
園庭改修事業実施	園庭樹木整備	四季感環境の整備・検討		
評価指標				
・ 行事アンケート実施	・ 改修のアンケート実施	—	・ 保護者満足度調査	・ 結果報告 ・ 方向性の確認

達成後の姿

・四季の自然の恵みに気づき、畏敬の念や感謝の心を抱き、豊かな感性や想像力を持つ園児に育っている。
・日本の文化、伝統文化に触れる機会や行事を法人のスケールメリットを活用して、実体験や感性を豊かにできるプログラムを実施している。
・園児が心情や情景を表す美しい言葉や、正しい日本語を感じることができている。

戦略
6

教育時間終了後の教育活動が付加価値として提供されている。



行動計画の
ストーリー

地域貢献をかねた施設活用と保護者の子育て支援を重視しつつ、教育活動としての課外教室や預かり保育の見直しと、有効性を検証し、付加価値として有効活用する。

平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
預かり保育の 教育活動としての検討	教育活動としての預かり保育のカリキュラムの構築		教育活動としての預かり保育のカリキュラムの導入と検証	
施設の有効活用の検討				
		課外教室の新規導入		
課外教室の新規導入の検討		新規課外教室の検証と再検討		
評価指標				
・ニーズアンケート （園児・保護者）	・アンケート調査	・預かり保育の 新カリキュラムが 構築されている	・満足度調査	・教育活動評価 ・ニーズアンケート

達成後の姿

・教育時間終了後の教育活動(課外教室、預かり保育含む)の有効設定と附属幼稚園教育への有効活用を付加価値として実施し、常に検証できる組織になっている。

戦略

7

法人内連携により、日本の文化や
伝統文化に触れる機会が提供されている。

5
↑
★
↑
8



行動計画の ストーリー	日本の伝統行事や文化について、学ぶ機会や本物に触れる経験を多く取り入れるため、法人との連携体制を構築し、カリキュラムや行事に組み込む。				
	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
	伝統文化・行事体験プログラムの策定・検証				
	伝統文化、行事の連携プログラムの実施とネットワーク・インターフェイスの確認と検証				
	法人との連携体制の構築・企画の検討				
	附属幼稚園伝統文化・行事プログラムの地域連携と発信				
評価指標	・保護者アンケート ・行事認識調査	・企画アンケート ・伝統文化行事体験 プログラムが策定できている	・プログラム検証・報告 ・イベント検証 (開催数・参加者数)	・満足度アンケート(保護者) ・アンケート(地域) ・実施プログラム内容の 再構築・発信ができている	・法人設置の教育機関としての 方向性確認
達成後の姿	日本の文化、伝統文化に触れる機会や行事を法人内で連携をとり、体験できるプログラムを実施し、地域に公開されている。				

戦略

8

建学の精神、保育理念の再確認と共有、
就学前教育の重要性が認識されている。

4
↑
6
↑
7



行動計画の ストーリー	幼稚園教育は生涯教育のスタートであり、その教育(就学前教育)は将来にわたって重要な意味を持つこと、また、幼稚園のみならず家庭教育を含むことを再確認した上で、研修の構築、実施、検証、を常に行い、教育環境の確認、情報の確認・発信のできる組織かつ構成員となる。				
	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
	就学前教育の重要性についての研修の構築				
	就学前教育の重要性についての研修・発信・検証				
	建学の精神、保育理念の研修(新人・中堅)の構築				
	研修の実施・検証				
	教育環境の検証と地域連携の検討				
	教育活動・研修のための時間の拡大、業務効率化の検討				
	業務効率化の検証				
	評価指標の作成				
	評価指標の確認・再編成				
評価指標	・自己現状評価の実施	・研修アンケート実施 ・満足度評価	・保護者アンケート実施 ・就学前教育の重要性や 取り組みを発信できている	・検証結果報告	・方向性の確認
達成後の姿	目的達成のために個々の良さを引き出しあい、お互いを尊敬できる関係性を保持できている。 ・常に時流適応の教育や教育環境ができていくかを課題として取り組む努力をしている。 ・園の教育力について外部に発信できる力を持つ組織の構成員になっている。				